

全校生のみなさん、おはようございます。

学校の敷地内の樹々の葉もうっすらと色づいてきました。季節が確実に秋へと移り変わっているのを感じます。今日から、後期が始まります。新しい気持ちでスタートしたいものです。

さて、皆さんは、2024年度が始まった時、どんな気持ちで新しい学年を、あるいは1年生の皆さんは、高校生活をスタートさせましたか？新しい教科書を手にした時には、勉強頑張ろう！と思ったことでしょうか。たくさんの友達を作りたい、部活動で活躍したいなど、様々な目標や夢を抱いたに違いありません。

しかし、時が経つにつれて、最初の頃の新鮮な気持ちや意気込みは、どこかに行ってしまったと感じている人もいるでしょう。何となく惰性で日々を過ごしていたり、自分自身に対して甘えてしまっていると感じる部分も少なからずあるのではないのでしょうか。

そんな経験を何度もしてきた私は、そのような時に思い出すようにしている言葉があります。それは、聖書の一番後ろの部分に入っている書物「ヨハネの黙示録」3章の次の箇所です。

「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくも熱くもない。むしろ、冷たいか、熱いか、どちらかであって欲しい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」このような言葉です。

こんな言葉が聖書の中にあるなんて面白いなあ、と感じる人もいるかもしれません。

「ヨハネの黙示録」という書物は、イエスの大切な弟子のひとりであったヨハネが、神の言葉を語る形で書かれています。この箇所はある教会にあてたメッセージですが、このような厳しい言葉で、物事の最初の頃の熱意に立ち返ることが呼びかけられているのです。

皆さんも自分自身の心のどこかに、なまぬるさを感じることはないのでしょうか？自分が描いた夢や目標に向かって熱く燃え続けたいと思っている。でも、現実は・・・とモヤモヤした気持ちを抱いている人はいませんか？もしそうであれば、それはきっと神様が、今のあなたに、最初の頃の熱意を取り戻すことを望んでおられる証拠です。

では、どうすればみなさんが、なまぬるさから脱出することができるのか、と考えてみました。

ひとつ目は、自分の好き嫌いではなく、今、与えられているすべての出来事を大切にすることです。私たちの人生には、楽しいことばかりではなく、辛いことや苦しいこともたくさんあります。しかし、どんな出来事も、未来の自分にとって貴重な経験になるということを、年を重ねた今だからこそ私は確信を持ってみなさんに言うことができます。惰性で物事を進めていると、何か大切なものをたくさん失ってしまいます。皆さんが体験するどんな出来事も自分自身の大切な財産になるということを意識して生活しましょう。

それに関連して、1時間1時間の授業を大切にしましょう。終業式の中でも話しましたが、授業や試験は、単に知識を詰め込む場ではありません。自分自身を成長させるための貴重な時間です。授業を無駄にすることなく、喜んで学び、考え、そして学んだことを生活の中で自分自身と誰かのた

めに、活かすことができるよう努力してみましよう。

ふたつ目は、周りの人たちとの関係を大切にすることです。家族、友達、先生、そして神様とのつながりを意識し、いつも感謝の気持ちを忘れずに過ごすことが大切です。

感謝は、人生の大きな力です。幸せの最も美しい形だとも言われます。私たちに、前に進む力や勇気、希望を与えてくれるものです。

先生たちは、皆さんが幸せになることを願っています。だから、時には厳しい言葉もおっしゃるでしょう。怠惰な状態に留まることがないように、叱咤激励してくださるのです。皆さんの熱意を燃え立たせたいからです。

今日、この後期の始まりにあたり、先ほどの言葉、「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくも熱くもない。むしろ、冷たいか、熱いか、どちらかであって欲しい。」という神様の私たちに対する思いを心に留め、一日一日を大切に過ごしていきましょう。

一か月後には創立記念日を迎えます。116年前に、Sr.ピアをはじめ5人のシスターたちの心を燃やした同じ聖霊が、今もこの学園の中に働いています。ここに呼び集められた私たち一人一人の、後期の学校生活を、聖霊が導いてくださるように願いながら、私の話を終わります。